



1 はじめに

市場西中町は横浜市鶴見区の東端に位置し、鶴見川と川崎市に挟まれた町で、真ん中を東西に旧東海道が走っています。東西約150m、南北約450m、面積約6.2ha、世帯数約780世帯、住民約1,330人の小さな町です。特徴は歴史がある町であるが故に古い木造住宅が密集し、道路は狭く、舗装されてない路地、高いブロック塀もあり、災害時に避難がスムーズにできないという問題がありました。また昭和33年の狩野川台風で床上浸水に見舞われました。そのため防災に対する町民の意識は高く協力的です。

この様な西中町が、平成15年に横浜市の住宅密集地区（市内で23地区）と指定されました。以来、行政（横浜市・鶴見区）・コーディネーターの指導を受け勉強を始め、防災まちづくり協議会を立ち上げました。又、まち歩きをして西中町の実態を再認識しました。そして平成18年「地域まちづくり組織」として横浜市の認定を受け（横浜市第1号）、平成20年鶴見区市場西中町「防災まちづくり計画」が、そして平成28年災害に強く安心して住み続けられる環境づくりを目標にした「新防災まちづくり計画」が横浜市の認定を再度受け、現在も横浜市の助成制度を活用し、月に一度の定例会もしくは幹事会を開催し、行政と地域の協働による防災まちづくりに取り組んでいます。

2 災害時何が必要か（ハード） ～ないものから創ろう

まず初めに、片側にしかなかった歩道を

両側に作り、道幅を広げました。これにより人や救急車両がスムーズに動けるようになりました。町民上げて盛大に完成式典を行いました。

行政（土木事務所）と町民の協力を得られたことが、まちづくり協議会を進める上で大きな力になりました。また、袋小路にある家の人が避難できるように避難扉の設置をしました。

次に火災に対する防災から地下に40㎡の防火水槽とかまどベンチ、簡易トイレを備えた、防災公園を2つ造ることにしました。自分たちの公園という意識を持ってもらうために子供会・老人会・自治会と3つのワーキンググループを作り、それぞれワークショップを開催し、自分達の思いがこもった公園ができました。

名前は公募し、1つ目の公園は「市場西中町きらきら公園」、2つ目は「市場西中町一里塚公園」と決めました。

次に、道に名前があると避難しやすいという意見があり、名前を付けることにしました。北から南に順に、ゆうづる通り・運動公園通り・旧東海道・中学校通り・きら



ゆうづる歩道の渡り初め



公園づくりのワークショップ風景

きら公園通りの5つです。これも公募で決めました。この名称はゼンリンの住宅地図にも使われています。

いざという時のために、防災備蓄庫・雨水タンクを設置し、スタンドパイプ・簡易トイレ・鍋釜から水や乾パン等の食料品・乾電池等まで備蓄しました。

3 ハードからソフト

揃ったハードを生かすには訓練が必要です。

毎年10月に防災訓練。子供から老人まできらきら公園に集り、スタンドパイプ・AED・かまどベンチ・簡易トイレ・三角巾



スタンドパイプの訓練

等の使い方を地元の消防団と一緒に訓練しています。

ごみPによる町内の吸殻拾いやごみ置き場の整備・改修・ごみ出しルールの徹底を資源循環局・区役所と取り組んでいます。カラスの来ないきれいな町を目指しています。

防災避難路マップ作成Pでは防災避難路マップを昨年10月に全戸に配布しました。

西中町防災マニュアル作成Pでは防災マニュアル作成に取り組んでいます。

行政と町民が一体となってまちづくりに励んでいます。

4 課題と思い

当協議会も高齢化が進み、若い人に参加してもらえるかが課題となっています。

このままだと自然消滅しかねません。知恵を働かせ継続させる方法を考えていかなければと思っています。

新築時の協議書の発行・防災訓練・ニュースかわら版の発行・川柳の募集・ごみP・備蓄庫P・防災マニュアルPは継続していきたい事業です。

行政と町民皆さんの知見をお借りして、防災は勿論、いつまでも住み続けたいと思う美しい町にできたらと思っています。



ごみ置き場のチェック